



Mr. MA Xiao

北京ウラン地質研究院 (BRIUG)



中国

研究テーマ：放射線防護の最適化とその手法による研究

受入機関：東京大学

招聘期間：2017年10月2日～2018年3月16日



最初に、研究者育成事業（原子力研究交流制度）に参加するという大きな機会を与えて下さった文部科学省に感謝申し上げます。

飯本先生の研究チームに参加できたことは光栄なことでした。私の研究テーマは2つあり、1つは自然環境中にある ^{222}Rn 、 ^{220}Rn 、また、肺がんの2番目の原因となっている ^{222}Rn 、 ^{220}Rn の娘核種の測定と被ばくの防護で、もう1つは放射性廃棄物処分とリスクコミュニケーションです。

研究活動を通じて、屋内のラドン濃度、散逸率や被ばくリスク評価のための様々な放射線測定器に（AB-5、WLx、ZnS、GM カウンタ等）について、利用法や最適化方法を学びました。また、ラドンチェーン内の実験手法も学びました。放射性廃棄物処分の研究では、IAEA、日本、中国の方策や規制を比較することで、この問題を理解するための世界的な視野を持つことができました。さらに、放射性廃棄物浅地中処分施設、核燃料再処理施設、研究炉などの数多くの原子力施設を訪問し、視野がとても広がりました。研究活動で得た知識や技術を、中国での放射線防護や評価に活かしていきたいと思います。

約6カ月間、東京で美しい環境、先端技術、親切な方々に囲まれて過ごしました。今まで私が出会った中で一番素晴らしい先生であり友人である飯本先生に心の底から感謝申し上げたいと思います。

ご指導下さった柳原先生と川崎先生に感謝申し上げます。RINE で研究を行ったことは忘れがたい経験となりました。これは私だけでなくマレーシアの自分のチームにとっても有益なものとなるでしょう。

私の研究テーマは「放射性廃棄物管理」で、マレーシアにおける放射性廃棄物管理をシミュレーションするためのシステムダイナミックス手法を検討することでした。放射性廃棄物の発生から、貯蔵、処理などを経た処分までの流れ（プロセス）の要素を総合的に検討し、必要となる費用などを算定するシミュレーションを検討しました。

研究活動を通じ、研究スキルが実質向上しました。議論や講義、施設訪問によって視野が広がり、貴重な経験や知識を得ることができました。また、分析的に考えて着実に研究を進め、得た結果を正確に伝えることを学びました。RINE での経験をマレーシアの同僚たちに必ず伝えます。このことが、共同研究や専門家会合など、国を超えて共に仕事ができるようになるでしょう。私は、良いものはほかの人と分かち合うべきだと思っています。

3ヵ月間敦賀に滞在し、日本の友人たちが勤勉で熱心なことに感銘をうけました。研究環境はとてもよく、率直な議論が交わされて、誰もが自身の研究分野についてもっと知る機会となりました。このことは研究が成功につながる重要な要素の1つだと思います。滞在中は研究室のメンバーがいつも助けてくれました。彼らの支えのおかげでどれだけ安心できたことでしょうか。熱心さ、質の高い研究、そして環境に対する配慮が日本の文化の素晴らしいところだと思います。この愛すべき国に必ず戻ってきたいと思っています。



Mr. KANG Wee Siang

マレーシア原子力庁



マレーシア

研究テーマ：放射線廃棄物管理

受入機関：福井大学附属国際原子力工学研究所 (RINE)

招聘期間：2017年9月25日～2017年12月15日